

鉄道等の大量輸送機関の活用を中心とした モーダルシフトの推進及び海陸一貫輸送システムの構築

平成26年5月29日

国土交通省総合政策局物流政策課

第1回アドバイザリー会議(平成26年3月3日)

議論した内容

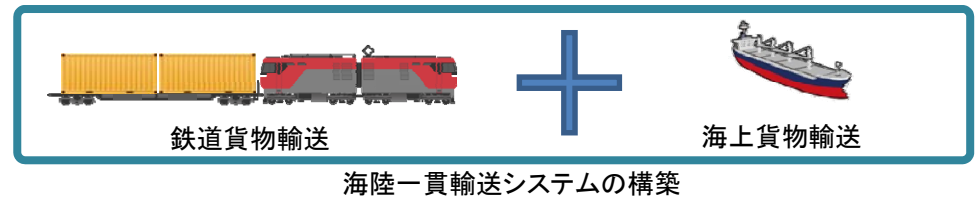
- 物流業においては、労働力不足が深刻化しており、トラック輸送においてはその傾向が顕著。
- この傾向は景気回復や消費増税前の駆け込み需要による短期的な事象だけではなく、構造的に続くと考えられ、中長期的な対応が必要。
- 今後、トラック輸送から鉄道等の大量輸送機関へのモーダルシフトの推進が必要。



第2回アドバイザリー会議(平成26年4月25日)

議論した内容

- 物流をとりまく情勢及びこれを踏まえた物流政策の課題と方向性について、中長期的、分野横断的な観点から議論。
- また我が国の産業競争力強化に向けて、国際海上物流システムの改善を図ることが必要であり、国内フィーダー輸送の一層の強化・効率化が求められる。
- 以上の課題に対して、大量輸送機関である鉄道等を活用した効率的な海陸一貫輸送システムの構築が必要。



主なご意見

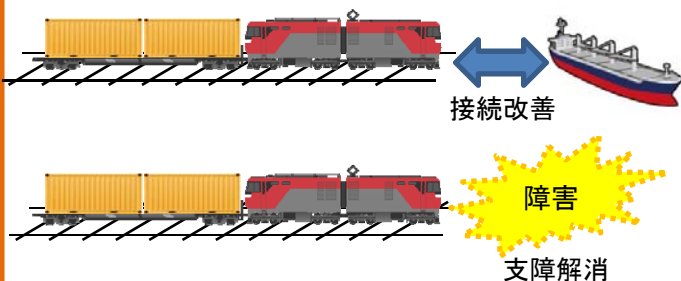
- トラックドライバー不足は事業規模を問わず、厳しい状況。特に長距離運行のドライバーが不足している。
- トラックの労働力不足に焦点があたっているが、物流産業全体の中で考えていく必要がある。
- 日本の経済、産業強化のため、アジア、特にASEANの成長を取り込むことが重要。
- 首都圏では、東京港のコンテナ引取における渋滞等のデメリットが顕在化している。
- モーダルシフトを進めるには、事業者が経済的メリットを得られるようになることが重要。
- モーダルシフトを徹底的に推進するため、鉄道の輸送力の強化、内航の効率化を図るべき。
- モーダルシフトを推進するためには、消費者の意識改革も重要である。

モード横断的な物流政策の実現に向けて、具体的な事例に則して改善策を議論していくことが有効

鉄道

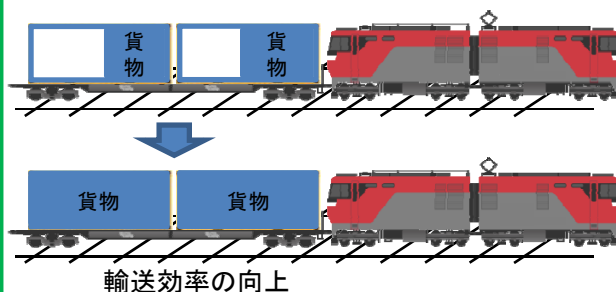
鉄道輸送の支障解消と接続改善

- ・鉄道による海上コンテナ輸送の円滑化
(通行支障の解消・港と鉄道の接続改善の検討)
- ・輸送障害時の代替輸送体制の強化
- ・荷役機器等の増備



コンテナの輸送効率の向上

- ・混載便の活用
- ・帰り荷の確保
- ・新規貨物の発掘
- ・土休日における利用促進



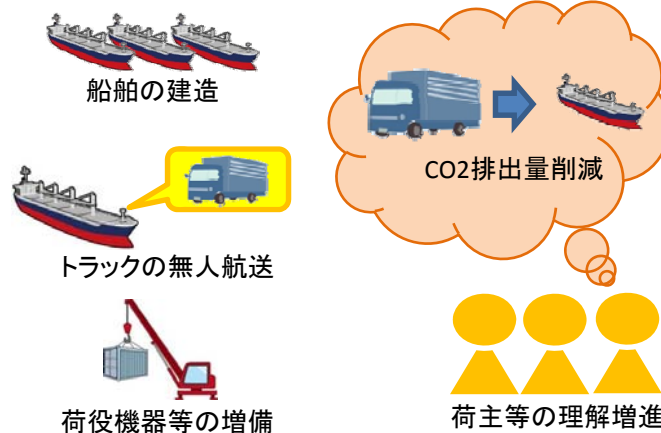
鉄道輸送への消費者の理解増進

- ・エコレールマークの普及促進



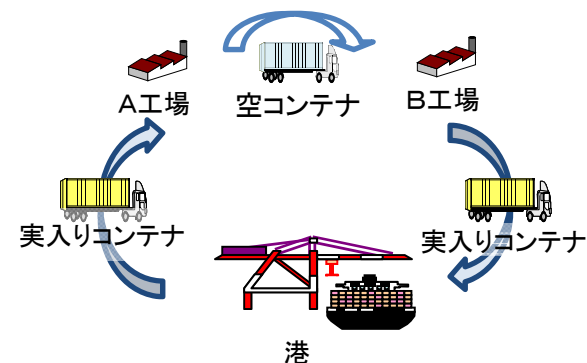
内航

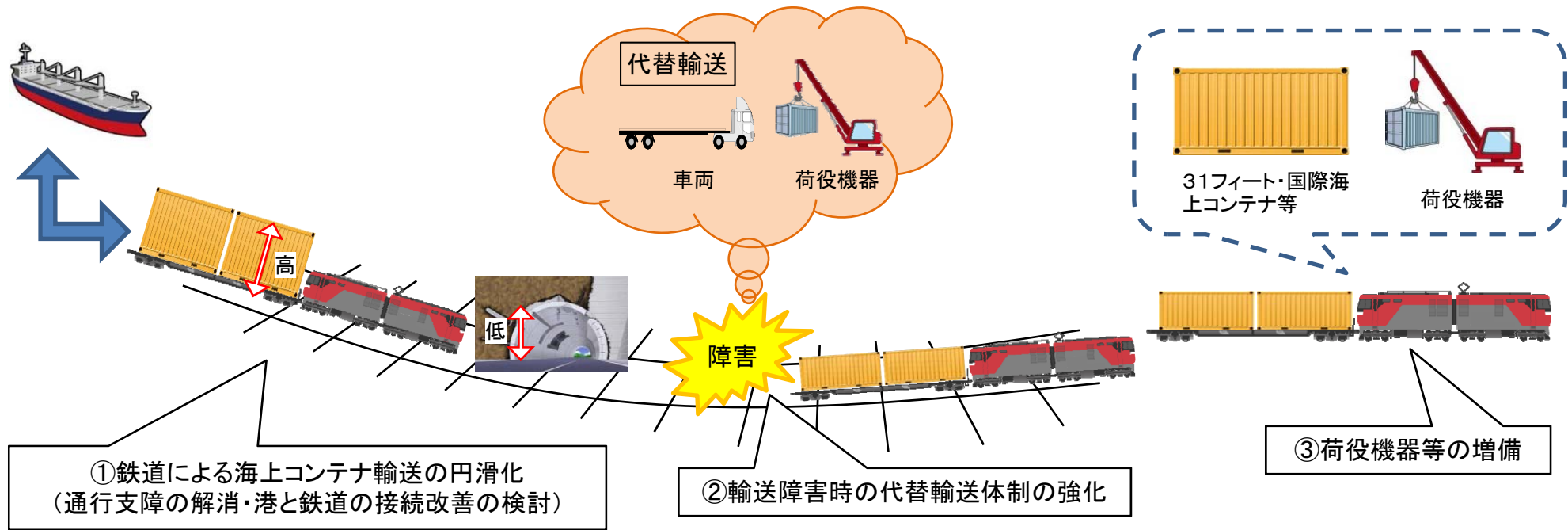
- ・モーダルシフトに資する船舶の建造推進
(船舶の大型化等)
- ・トラックの無人航送推進
- ・輸送機器等の増備
- ・内航輸送への荷主等の理解増進



トラック

- ・トラックによる海上コンテナのラウンドユース





① 鉄道による海上コンテナ輸送の円滑化 (通行支障の解消・港と鉄道の接続改善の検討)

・低床貨車の研究開発、運行面での安全確保(導入可能性及びトンネル走行)等の各種解決策のフェーズビジティを検証

・港と鉄道の接続改善に向けて、ニーズの把握(船社・荷主等)やコスト・リードタイムの削減効果等を検証

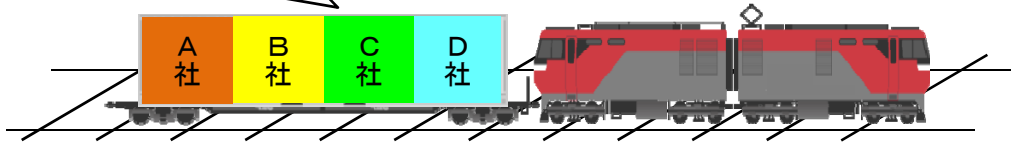
② 輸送障害時の代替輸送体制の強化

輸送障害時、荷主に適切に対応するため、代行用車両や荷役機器の確保

③ 荷役機器等の増備

31フィートコンテナ、国際海上コンテナ等及びこれらを取り扱う荷役機器等の増備を通じ、新たな鉄道需要開拓を促進

混載便の活用



土休日における
利用促進

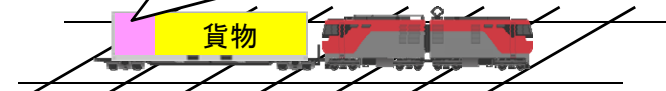
| SUN | MON | TUE | WED | THU | FRI | SAT |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 31 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
| 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 |
| 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 |
| 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 |
| 28 | 29 | 30 | 1 | 2 | 3 | 4 |

※鉄道貨物輸送の積載率は平日が高く、土休日は低い。

(鉄道の例)

往路

新規貨物の発掘



復路

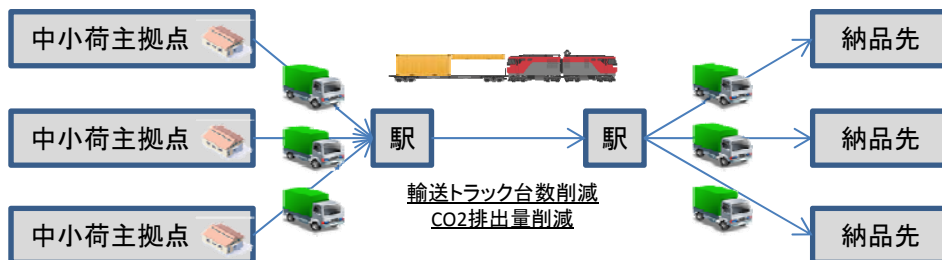
帰り荷の確保



混載便の活用

・現在ほとんど行われていない鉄道貨物の混載便実施の可能性を検討することで、一つのコンテナを満載にする程の荷量が無い中小荷主も鉄道輸送を使いやすい仕組みを検討する。

(鉄道を利用した新たな混載輸送システム)



土休日における利用促進

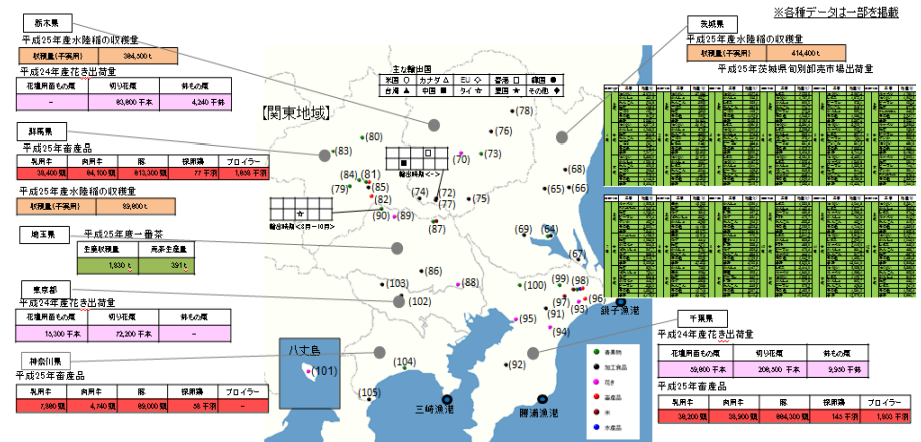
・事例をもってリードタイムの考え方を整理し、土休日における鉄道利用の可能性を検討

新規貨物の発掘／帰り荷の確保

荷主や物流事業者が日本各地で発生する貨物の情報を得る仕組みを構築することにより、新規貨物の発掘や帰り荷の確保をやすくし、輸送効率の向上を図る。

※農林水産物・食品輸出の物流検討会では、物流マッチングマップを提案している。

※特に国際海上コンテナ輸送については、国際海上コンテナ輸送の起点となっているエリアでの実施等を視野に(例:盛岡)



※物流マッチングマップでは、発生した荷物の種類、場所、数量などの情報を掲載する予定。

内航

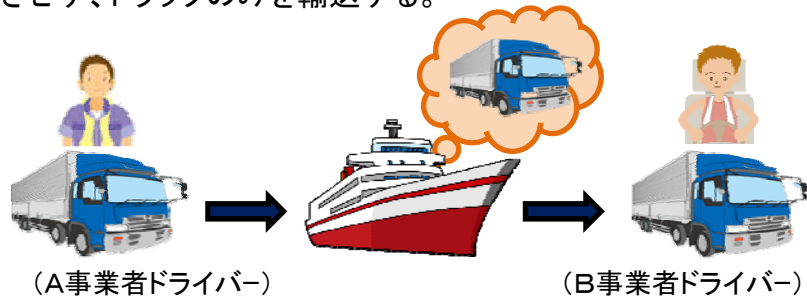
モーダルシフトに資する船舶の建造推進 (船舶の大型化等)

外貿コンテナの内航フィーダー輸送を含め、モーダルシフトに資するコンテナ船等の建造を推進。



トラックの無人航送推進

フェリー・RORO船でトラック輸送をする際、ドライバーを乗船させず、トラックのみを輸送する。



輸送機器等の増備

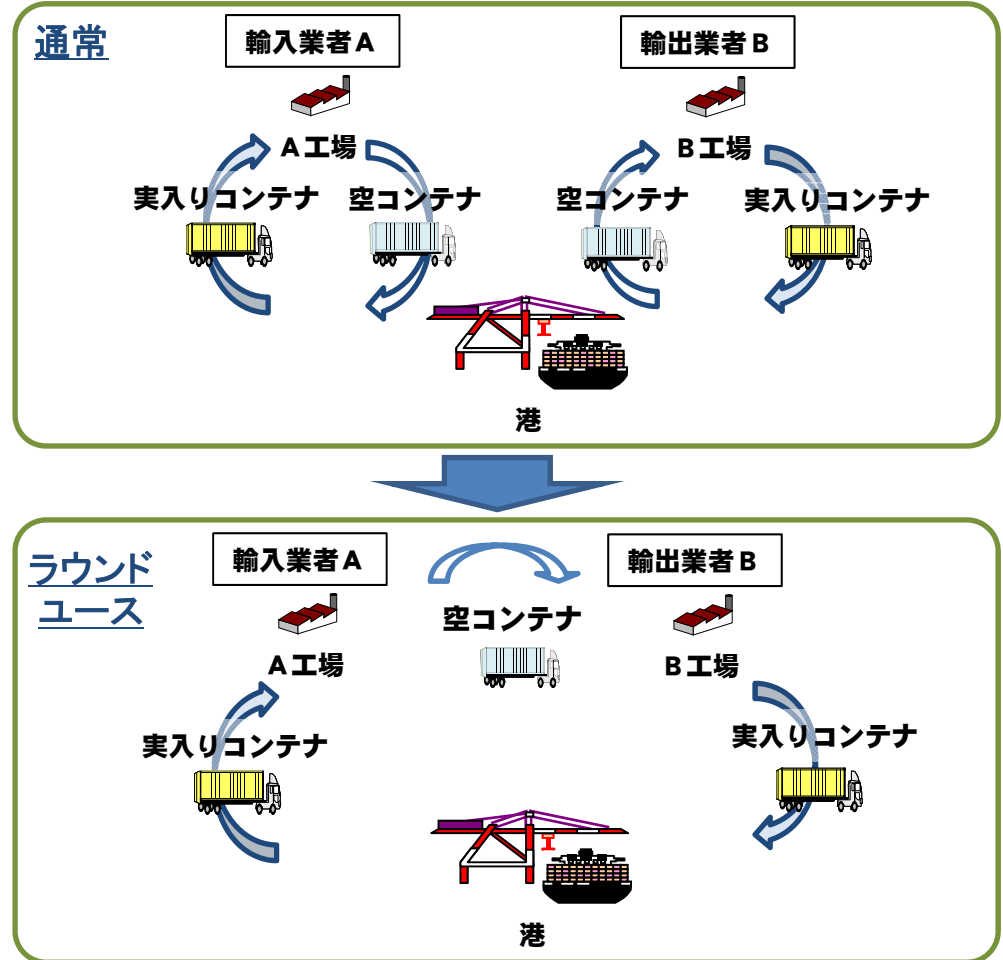
スムーズな海陸一貫輸送に資するシャーシ・コンテナ等の増備を推進。

内航輸送への荷主等の理解増進

荷主系企業や物流事業者、消費者に対し、内航輸送への理解増進を図る。

トラック

トラックによる海上コンテナのラウンドユース



【効果】

- ・空コンテナの回送削減による**物流コストの削減**、**CO2の削減**
- ・港に流入するトラック台数の削減による港における**渋滞緩和**